

また今年も、「ふるさと山口法人ネットワーク」のNPO法人化を計画。本年中の認可を目指して、現在、申請手続きを行っているところです。このNPO法人では特に「山口県の女性の力」を活かした活動に力を入れていく予定で、法人内に山口にゆかりのある女性経営者の会「WAY」(＝Women's Association)というグループを設立しました。

今後、「女性の元気が世の中を元気にする！」を合言葉に、山口ひいては日本の活性化のために面白い企画を実施予定です。

**Q** 日常生活の中で、男女の差を意識されたことがありますか。

以前、事務所の賃貸契約の際に、貸主から「契約者を男性(取締役)にしてほしい」と言われてビックリ! そのほかにも何度かそんな場面に出くわしましたが、そこから得た教訓は、性別を理由に不条理な目に遭った時は、感情的にならず冷静に理路整然とこちらの意思を伝える。信念を持って行動することが大切だと思いました。

**Q** 山口県の女性のイメージはどのようなものですか。

県外では、やはり山口県＝保守的な土地柄というイメージが強いです。特に女性は、全国的に知名度のある財界人や政治家が少ないためか、保守的なイメージを持たれている感は否めません。男性の一步後ろで控えめにしているというようなイメージでしょうか。でも、実際は違いますよね? 山口の女性、実はすごく強いです! 私自身首都圏で山口県関係の活動をしていると「山口の女性ってすごいねえ」と驚かれることもよくあります。

**Q** 山口県の女性にエールを願います。

山口の活力アップのためにも、ビジネス、家庭、地域社会…、すべての面で女性の力は必要ですし、もっともっと活かされていくべきだと思います。「女性が活躍する社会」というのは、女性が男性と一緒に切磋琢磨している社会のこと。女性が自らの生きる道を選択し、切り開いていきやすい環境を整えば、女性の活躍の場はもっと広がっていくのではないのでしょうか。よく「女性が活躍する分野」などという表現をしますが、そもそも活躍の場を男女で分ける必要はないと思います。例えば、私が働いているWebマーケティング業界も以前は男性が圧倒的多数でしたが、今は女性が大半参入し、それによってより魅力的で可能性の大きい業界に変わりました。



ちよつと話は飛びますが、幕末、長州藩がイギリスと戦った時、萩の女

たちはイギリス軍を迎え撃つべく、土塁(女台場)を築きました。そして、あの高杉晋作が死の間際に「面白き事も無き世を面白く(するには)どうすればいいかな」とつぶやいたとき、「すみなすものは心なりけり」(「気持ちの持ち方次第でしょ!」)と続けたのも、野村望東尼という女性でした。そう、いつの時代も山口の女性は、男性と一緒に頑張ってきたのです。その自負を、ぜひ皆さんに持つてほしいと思います。

私は山口県防府市出身ですが、山口の女性には、周囲を奮い立たせる力があります。「長州女」のパワーを活かして、山口を、そして日本をもっともっと「面白く」していきたいと思います!

「男だから、女だから」という言葉が場違いに感じられるほど、どなたも独自のライフスタイルをお持ちで、仕事や生活の中でご自分の力をしっかりと発揮しておられました。昨今、各界で声高に言われている「女性の力の活用」というのは、こうした地に足の着いたしっかりとした歩みのことがもしません。